

GⅢ Vol.71

生きた和紙のかたち

山鹿灯籠

2010年
6月2日(水)

7月25日(日)

このたび、熊本県の伝統工芸を紹介する「山鹿灯籠-生きた和紙のかたち」展を開催いたします。

山鹿灯籠は、熊本県山鹿市に伝わる紙細工で、15世紀初頭に金灯籠を模したものが作られ、大宮神社に奉納されるようになったとされています。現在では八月に行われる山鹿灯籠まつりで使用される金灯籠、奉納灯籠がその中心となっています。

和紙と糊のみを使用し、全行程が手作業で作られ、なかでも建物を模した作品では、写真を参考にその寸法を独自に割り出し、細部の造作が作り上げられるため、制作者の個性が随所に宿る作品となるのです。

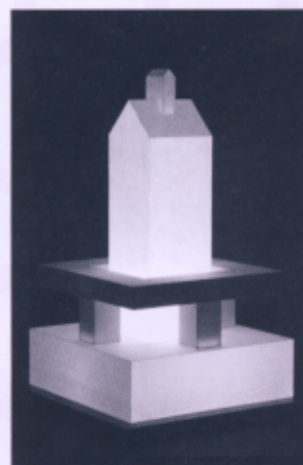
本展では、個人収集家の木下康氏が熊本の紙工芸の保存と継承を願い、山鹿灯籠師の中島清氏へ依頼し数年をかけて制作された、法隆寺の本殿、夢殿、五重塔等をご紹介します。

あわせて、2007年に当館で開催された日比野克彦展の際にアーティスト日比野克彦氏のデザインを基に、中島清氏が制作されたフロアランプ「トーロート」も展示いたします。

受け継がれてきた山鹿灯籠と、現代のアーティストとの共同プロジェクトの作品を通して、伝統と現代の感性が融合した紙工芸の多様なかたちを紹介する展覧会です。



中島清氏制作風景



「トーロート」2007年 制作:中島清 デザイン:日比野克彦 熊本市現代美術館蔵

山鹿灯籠 まめ知識

お祭りで女性が頭に載せるのは「金灯籠」。その他にも神社や仏閣を題材とした「宮造り」、「座敷造り」、「お城造り」、中に可愛い和紙の鳥が入っている「鳥籠」や壺をかたどった「矢壺」など、様々なものがつくられています。

どんなに大きな作品にも木や金具類は一切使わず、和紙と少量の糊だけでつくられます。

わずか数ミリの和紙の切断面に糊をつけて接着。中の光が綺麗に透けるように工夫されています。

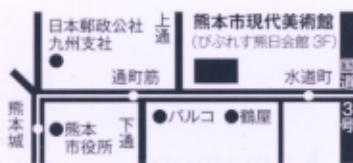
丸い柱や障子の棧にいたるまで、何百、何千というパーツが全て空洞で、作品はとて軽く仕上がっています。

熊本市現代美術館

〒860-0845

熊本市大通町2番3号びぶれす熊日会館3階
Tel.096-278-7500 Fax.096-359-7892

www.camk.or.jp



- 阿蘇くまもと空港～リムジンバス「熊本駅前」行(約40分)
- JR熊本駅～市電「健軍町」行(約10分)
- JR新水前寺駅～市電「熊本駅」「上熊本駅」行(約8分)とおりちようすじ
- いづれの場合も「通町筋」バス停・電停下車(徒歩1分)

美術館は交通アクセスの良い熊本市街地中心部にありますので、できるだけ公共の機関をご利用ください。